

文化財センター通信

【かざぐるま】

風車 12

平成17年3月22日発行

紀州の歴史と文化の風

640-8404 和歌山県和歌山市湊571-1

発行：財団法人 和歌山県文化財センター e-mail: naiizou-1@wabunse.or.jp Tel : 073 (433) 3843 Fax : 073 (425) 4595



■ 「全埋協」の全体研修

主 な 内 容	
巻頭写真	「全埋協」の全体研修
1	全国埋蔵文化財法人 連絡協議会研修会の開催
2	旧中筋家住宅の部屋としつらえ④
3	コラム・考古学の散歩道 フランス考古紀行
4	和歌山文化財クロスワード③
5	現場速報

全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会の開催

松田 正昭

全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会が、平成16年10月14日・15日の2日間、和歌山市南汀丁の和歌山 東急インを会場に開催いたしました。

全国埋蔵文化財法人連絡協議会は、昭和55年度に設立された「埋蔵文化財の調査研究及び普及等にかかる事業を積極的に推進しようとして設立された公益法人で」組織され、北海道から福岡県まで現在61法人が加盟しています。

今回の研修会には、45法人、83名の参加者がありました。研修会は、全体研修と分科会に分かれての研修があり、全体研修は、紀州を代表する名刹 道成寺の副住職 小野俊成師に「一生一度 絵とき説法と秘仏開帳」と題するご講演をいただき、また、絵とき説法を実演していただきました。

分科会は、事務担当職員を中心とする管理運営部会と調査担当職員を中心とする調査研究部会に分かれて研修を行いました。



■ 管理運営部会

管理運営部会は、朝日新聞 編集委員の天野幸弘氏に「マスコミと文化財」と題してご講演をいただき、文化財報道についての興味深い話をお伺いすることができました。調査研究部会は、当センターの黒石哲夫副主査と藤井幸司技師が日頃の研究成果を発表しました。黒石副主査は「岩橋千塚の横穴式石室について」、藤井技師は「大日山 35 号墳の調査について」と題してそれぞれ発表いたしました。

翌日は、県立博物館において開催中の特別展「空海と高野山」展を、同館の竹中学芸課長からこの展覧会の見所・展示品について解説をいただいた後見学しました。2日間の研修でしたが、それぞれの法人が抱える問題や各地の状況についても話し合うことができました。

【旧中筋家住宅の部屋としつらえ】④

鈴木 徳子

重要文化財旧中筋家住宅保存修理事務所

— 中筋家の主屋 その2 —

今回は、主屋のうちでも、生活の場である土間・台所などのお話しをします。

主屋の正面には、中央に賓客の大玄関と、その右手に客用・家人（といっても主人用だと思われます）の内玄関が並んでいます。内玄関の奥は 18 坪ほどの土間になっていて、かつては中央に幅 1.2×3.5m ほどの大きな 5 つ口の竈がありました。また、竈の上部、棟木のさらに上には、煙出しの小屋根もあり、食べ物を煮炊きする生活の中心の場でした。



■ 旧中筋家主屋 土間側より見る



■ 土間内部

土間上を見上げると、直径 40 cm を超える黒光りした松の梁が縦横に這い、棟木までの高さは約 7m もあって、目が眩むようです。よくこんな大きな材を組み上げたものです。

また、土間の北側には、3.5 坪ほどの井戸屋形もあります。井戸屋形のすぐ脇の、土間の東面には木製の流しや棚が取り付けられていたことも分かりました。民家では、こうした生活に必要なしつらえが無くなってしまふと、がらんとして味気ないものになってしまいます。今回の修理工事では、これらを復元し、竣工後は、実際に皆さんに使っていただけるような計画も進めています。

土間の東側は床上の台所になっていて、その境目には、南に大黒柱、北に二大黒柱（二番目に大きい）が立っています。台所は 12.5 畳あり、土間境の部分の 1.5 畳分が板敷き、あとは畳敷きです。台所の中程には、半畳の囲炉裏がありましたが、はじめから有ったも

のかは分かりませんが、台所の内部は、柱や天井は煤がついて黒光りしていて、土間とともに生活の中心であったことが分かります。

【コラム・考古学の散歩道】フランス考古紀行

丹野 拓

昨年秋、多忙を極める最中に（日本人としては）大胆にも半月の休暇を取ってフランスへ旅に出ました。パリ周辺と私の兄が住む南仏アルデッシュ県のサン・アンドレ・デ・クルーズ村というところに滞在してあたりを徘徊するうちに、多数の考古的なものに遭遇したのでその一端をご紹介します。

パリ周辺には世界中の考古資料の揃うルーブル美術館のほか、フランス通史の分かるサンジェルマン・アン・レー国立考古博物館、日本の須恵器や埴輪の展示もあるギメ博物館など多様な博物館があります。一方、地中海に面したプロヴァンス地方にはローマ時代の劇場や闘技場、水道橋などが残存しており、発掘調査も行われています。ローマ時代に形成されたニームやアルルといった都市には、大規模な博物館が造られています。パリとプロヴァンスの間に広がる中央高地に一步入ったアルデッシュ県の場合、これらのような博物館はありませんが、先史時代の地域博物館が多数存在しています。

フランス人は通常朝食を摂らず、昼食を2時間くらい楽しむため、地方の博物館に昼に行くとしばしば閉館しています。オルニャック洞窟（地下120mまで行ける鍾乳洞）の博物館ではちょうどこの昼休みに当たってしまい、時間つぶしに近くの山中に分け入ったところ、やや崩れているものの支石墓（ドルメン）と分かるものを発見しました。アルデッシュでは約3500～1500年前にかけて約700基のドルメンが築かれていたものと考えられています。

また、農学博士の兄が在籍しているジャレスの国立オリエント先史研究所では、西アジアのテル・アスワドの調査担当をしていたダニエル・ステルターさんや、植物学者のジョージ・ウィルコックスさん達を客にみたて茶会を催しました。「美味しい」といいながらも、皆、抹茶の苦さとおはぎの得体の知れなさには驚いたようです。

この研究所の建物は、アルデッシュ南部の十字軍遠征基地（コマンドリー）を利用した石造りの重厚な城館です。建物内には書籍のほか、大量の動物の骨や石器が保管されており興味深い限りでした。



■ 支石墓

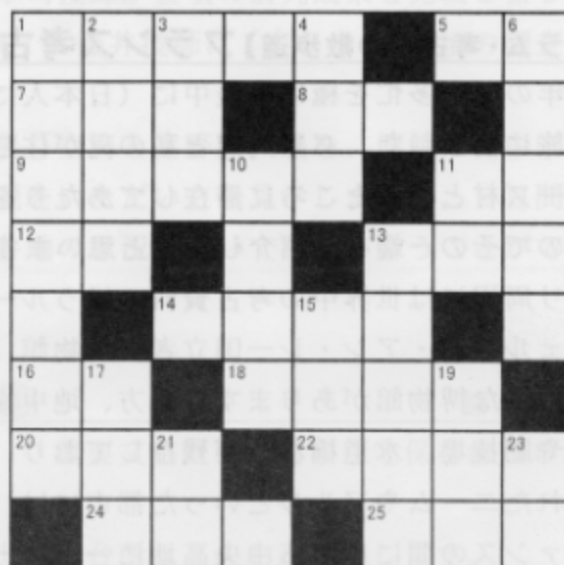


■ 茶会の様子

和歌山文化財クロスワード③

縦のカギ

- 1 近隣諸国から高野山の麓へ向かう街道
- 2 熱湯に手を入れて真偽を探る古代の裁判手法
- 3 文事の風雅な道。風流。
- 4 訳もなく待たせたりすること。
- 6 鉄砲百人組の一つ。根来衆をもとに結成。
- 10 長安と並び称される中国の旧都
- 11 車駕之古址古墳で出土したのは__の勾玉
- 13 南都七大寺の一つ。現在、文化財研究所がある。
- 15 魚を生かして飼っておく場所。
- 17 天皇の正妻。
- 19 古墳時代、紀ノ川下流域は紀氏が__した。
- 21 邪馬台国の記事は__倭人伝に載っている。
- 23 那智大社には平安時代の銅製牟婁郡__がある。



横のカギ

- 1 奈良時代に全国に配された官寺。打田町にもある。
- 5 弥生時代に本格的に作られ始めた日本の主食作物。
- 7 紀ノ川の__には打田町、左岸には桃山町がある
- 8 紀州御庭焼には__焼の作品が多い。
- 9 熊野には__という足が三本ある鳥が祀られる
- 11 1000メートル=1__メートル
- 12 徒歩のこと。徒歩で行列の先導を勤める侍。
- 13 おもちゃのこと。石川啄木「悲しき__」
- 14 書斎。室町～江戸時代の建築様式。__造。
- 16 土で作った容器。縄紋__。弥生__。
- 18 受動的な腰つきや態度。
- 20 十二支の一つ。出雲神話の因幡のしろ__は有名。
- 22 イスラム教では、偶像__は禁じられている。
- 24 仏教の安産・子育ての神。訶梨帝母ともいう。
- 25 仏像を安置し、僧尼が宗教活動する建物

現場速報

当センターの発掘調査・建造物保存修理現場の近況をお知らせします。

埋蔵文化財課

- 高野町 史跡町石（11月上旬～下旬）壇上伽藍と奥の院の間で近世の焼土層等を確認。
- 海南市 野上中南遺跡（10月上旬終了）鎌倉時代の井戸から多量の土器が出土。
- 和歌山市 岩橋千塚古墳群（12月上旬終了）県教委の指示に従って、前山A2号・B41号墳の主体部と、大日山35号墳・前山A67号墳の一部の調査を実施。
- 岩出町 根来寺坊院跡（1月上旬～3月中旬）一乗閣移転予定地の試掘調査を実施。中世から近世にかけての建物跡・井戸・道路状遺構等を確認。
- 南部町 徳蔵地区遺跡（9月中旬～11月下旬）古墳時代の集落縁辺部を確認。

文化財建造物課

- 和歌山市 旧中筋家住宅（保存修理中）主屋は垂木の取付けや煙出しの復旧、表門は揚屋工事をしています。
- 下津町 福勝寺（保存修理中）室町時代中期の本堂の修復工事を開始しました。

《編集後記：月日の経つのは速いもので、もう年度末になってしまいました。来年度も頑張らしましょう。（丹野）》